



# 風光る

2022年 4月27日 春のたより号 発行者 坂野 直美

## 眩しい季節に 新しい気持ちで

今年度、学校図書館通信を季節ごとに発行します。通信の名前は『風光る』です。『風光る』は春の季語(季節を表す言葉、俳句に用いられる)です。春の日差しのおかげでやわらかくふく春風まで光り輝いて見えること。まさに、中学生の皆さんの姿です。光り輝く中学時代に、読書の習慣を身に着けられるようお手伝いしたいと思います。

### 道をひらく言葉

『手紙屋』  
あなたが思っている以上に、今日  
一日の勉強が、将来の世界を大きく  
変えることにつながるんです。  
『人の役に立つ人になる。そのた  
めに勉強する。』  
そのことを忘れないでくださいね。

喜多川 泰 著

『手紙屋』  
蛍雪編

### 心に沁みる言葉

『なぜ僕らは働くのか』  
監修 池上彰  
大切なのは「自分の人生に  
責任を持てるのは自分だけ  
だ」と気づくこと。そして  
「自分で自分の人生をつくる  
んだ」と覚悟すること

### 言葉を豊かに

#### お願い

学校図書館には、一年に数回、新刊が入ります。図書館に入ってすぐの机の上に最新刊を置くようにしています。新しい本は、多くの人に読んでほしいので、貸し出しは一人二冊までです。ていねいに扱ってください。

#### 本屋大賞の本から

##### 『夜のピクニック』恩田 陸 著

学校図書館の奥の机には、本屋大賞受賞作品を並べています。本屋大賞は、全国の書店員さんの投票で選べます。プロがおすすめする本です。

中でも私のおすすめは恩田陸さんの『夜のピクニック』です。映画化もされましたが本で読むとまた味わいが違います。恩田さんは『蜜蜂と遠雷』も本屋大賞に選ばれました。一人の作家が二回受賞したのは恩田さんが初めてです。

#### 時代小説はいかが？



私が毎年のようにおすすめしているのは、

高田 郁著『みをつくし料理帖全10巻』です。

江戸の料理屋「つる屋」を舞台に、料理人として働く漣の成長物語。災難に遭いつづける宿命をもつ漣が、試練を乗り越えていく姿に胸が熱くなります。

「雲外蒼天(困難を乗り越えた者にしか見えない青空)」を、漣と一緒に見上げませんか。

『あきない世傳 金と銀シリーズ』も併せてどうぞ。



学校図書館通信で紹介している本はすべて学校図書館にあります。ぜひ、よんでみてください。